

令和7年度 東京都小学校理科教育研究会 研修7「植物観察 ー附属自然教育園で学ぶ自然ー」

- 1 期日 令和7年8月22日(金) 9時30分～12時15分
- 2 場所 国立科学博物館附属自然教育園
- 3 講師 元国立市立第七小学校長 森田弘文 先生
- 4 内容 (1) 挨拶 都小理副会長・西田香
(2) 講師紹介
(3) 研修 ①自然教育園内の植物観察
②植物に親しむ授業
③種子の模型作製と飛ぶ様子の観察
- 5 参加人数 19名(都小理役員役員等 5名)
- 6 報告

(1) 自然教育園内の植物観察

園内を回りながら植物を観察した。森田弘文先生にヤブミョウガの丸くない種、イノコズチの左右対称な枝などについて解説していただくことで、参加者は植物への関心を高めていた。

森田先生から「植物でたくさん遊ばせてほしい。触った感触など、どんどん言語化させてほしい。名前を覚えさせるより、植物を身近に感じさせることが大切である。」というお話をいただいた。

(2) 植物に親しむ授業

受講者は4人から5人で1チームとなり、持参した7枚の葉をグループ分けした。それぞれの葉の特徴を捉え、話し合いながらグループ分けする活動は、必然的に葉の多様性に気付くことにつながった。

その後、森田先生にご準備いただいた草花を使い、植物を使った遊びを複数体験した。カタバミの葉で10円玉を磨くときれいになることや、タラヨウの葉を釘などで削ると黒くなり文字など書けること、アケビの葉を削ると文字は白くなることなど、体験しながら楽しく学ぶことができた。エノコログサの葉、シラカシの葉を使った草笛づくりにおいて、音を鳴らすことができた受講者の誇らしげな顔が印象的であった。

(3) 種子の模型作製と飛ぶ様子の観察

自然教育園のボランティアの方々から、植物の種子散布の方法について説明していただいた。また、ニワウルシ、ラワン、アルソミトラマクロカルパの種子の模型を作成し、実際にどのように飛ぶのかを室内で確かめた。

研修終了前に屋外に出て、木の枝にロープをかけ、ロープの先にある台の上に作製した種子の模型を乗せて、落ちる様子を観察した。きれいに落ちて散らばっていく様子を観察することができた。



釘で文字を書いたアケビの葉



作製した種子の模型

